

名前：

新聞や雑誌はこれから必要である。インターネットの扱える情報量及びインターネットへのアクセス自由度がぐいさに進化しようとして、新聞や雑誌の持つ「紙媒体」というアドバンテージで、インターネットが乗りこえることはそう容易ではない。少なくとも新聞、雑誌という紙媒体の持つ特長を上回る利便性が、インターネット及びそれへの接続メディアにおいて発明されない限り、新聞、雑誌の必要性は揺るぎないと思われる。では、その紙媒体の利点とは何か。

それは、情報へのアクセスの比類なき容易さである。我々は紙上の情報を読み取るのに、ただその字を読みはよいだけである。対してインターネットでは、まあPCなりポータブルメディアなどの電源を入れる所から始まり、然るべき手順を踏んでその情報までたどり着き、そこで初めて文字を読むという段階へ移行するところになる。つまり、紙媒体とインターネットでは、アクセスへのスタートライ

ンが違っているのである。利用頻度を考慮すれば、この差は大きい。また、一度に閲覧できる情報量にも、インターネットは制限がある。IPでニュースサイトで見える場合などは割合新聞、雑誌と変わりりな情報量を手にすることもできようが、ポータブルメディア、例えば携帯電話などでは、新聞、雑誌と比べてかなり小さな情報量しか扱うことができない。もちろん、インターネット独自の利点もある。複数のメディアの比較閲覧などはインターネットの得意分野だろうし、ニュースに関連した情報を検索サイトを通じて素早く集めるなどということはインターネットにしかできない芸当である。

しかしそのいずれも、紙媒体の原始怕ゆえに有する簡便性を押し退けて、新聞、雑誌を駆逐してしまうなどには強くない。かような理由により、新聞、雑誌はこれからその有用性を維持し続けるため、十分必要なものである。